

# 地場企業の経営動向調査

(令和2年度第2四半期)

令和2年10月21日

 福岡商工会議所

総合企画部 企画広報グループ

TEL 092-441-1112

## 調査目的

福岡市内地場企業（一部福岡市近郊を含む）の景況及び経営動向を把握すると同時に、これらの情報を企業へ提供し、企業経営の参考に資するものである。

## 調査対象

当所会員企業を対象とし2,000社を任意抽出したもので、対象企業の内訳は中小企業1,906社（構成比率95.3%）、大企業94社（構成比率4.7%）により構成されている。

回答した企業数は560社、回答率28.0%となっており、回答企業の内訳は、中小企業535社（構成比率95.5%）、大企業25社（4.5%）となっている。

## 調査要領

四半期毎にアンケートを実施し、今回ファクスを利用した。

内容は前年同期比の回答を求めるもので、今回は令和2年7～9月期の実績、及び令和2年10～12月期の予想について、令和2年9月時点で調査した。

## 調査内容

※DI値を集計（DI=「良いとする回答割合」－「悪いとする回答割合」）

DI・・・Diffusion Index（景気動向指数）の略

### 《 景気・経営動向調査 》

1. 自社・業界の景況
2. 生産額、売上額、完成工事高
3. 原材料・製（商）品仕入価格
4. 受注価格、販売価格
5. 製（商）品在庫
6. 営業利益
7. 資金繰り
8. 当面の経営上の問題点

## 調査対象企業数及び回収結果

規 模 別	対象数	回答数	回答率	回答結果 構成比
全 業 種	2,000	560	28.0%	
中 小 企 業	1,906	535	28.1%	95.5%
大 企 業	94	25	26.6%	4.5%

業 種 別	対象数	回答数	回答率	回答結果 構成比
全 業 種	2,000	560	28.0%	
建 設 業	347	111	32.0%	19.8%
土木建設業	141	45	31.9%	8.0%
建設付帯工事業	83	24	28.9%	4.3%
電気・管工事業	123	42	34.1%	7.5%
製 造 業	237	85	35.9%	15.2%
食料品製造業	74	20	27.0%	3.6%
繊維製品製造業	10	3	30.0%	0.5%
建材・木・紙製品製造業	10	3	30.0%	0.5%
印刷・製本業	46	15	32.6%	2.7%
窯業・土木製品製造業	9	4	44.4%	0.7%
金属製品製造業	21	13	61.9%	2.3%
一般機械器具製造業	22	9	40.9%	1.6%
電気機械器具製造業	21	8	38.1%	1.4%
その他製造業	24	10	41.7%	1.8%
卸 売 業	305	100	32.8%	17.9%
食料品卸売業	82	27	32.9%	4.8%
繊維製品卸売業	26	7	26.9%	1.3%
建材・住宅機器卸売業	41	18	43.9%	3.2%
金属・鋼材卸売業	5	3	60.0%	0.5%
一般機械器具卸売業	54	11	20.4%	2.0%
電気機械製品卸売業	8	2	25.0%	0.4%
石油・化学製品卸売業	11	4	36.4%	3.6%
その他卸売業	78	28	35.9%	5.0%
小 売 業	222	45	20.3%	8.0%
食料品小売業	56	13	23.2%	2.3%
衣料品・身の回り品小売業	33	5	15.2%	0.9%
石油・化学製品小売業	12	4	33.3%	0.7%
車両運搬具小売業	15	2	13.3%	0.4%
家電・厨房器具小売業	21	5	23.8%	0.9%
量販店	4	0	0.0%	0.0%
その他小売業	81	16	19.8%	2.9%
運 輸 ・ 倉 庫 業	115	40	34.8%	7.1%
旅客運送業	38	11	28.9%	2.0%
貨物運送・倉庫業	77	29	37.7%	5.2%
サ ー ビ ス 業	774	179	23.1%	32.0%
情報処理サービス業	109	29	26.6%	5.2%
その他事務所サービス業	370	85	23.0%	15.2%
ホテル・旅館・飲食業	104	22	21.2%	3.9%
その他の個人サービス業	191	43	22.5%	7.7%

# 1. 自社・業界の景況

《改善の傾向も、次期も依然として厳しい状況が続く見通し》

今四半期(令和2年7月～9月)の地場企業の景況判断は、全業種で「良くなった」と回答した企業割合は7.4%(前期比+0.7%)、「悪くなった」と回答した企業割合は67.5%(前期比▲3.8%)、「横ばい」と回答した企業割合は21.6%(前期比+6.0%)となった。景況判断指数DI値は▲60.1(前期DI値▲64.6)となり、前期比で4.5ポイント改善。3四半期連続の低下の後、底打ちの兆し。

業種別にみると、6業種中建設業や卸売業を筆頭に4業種で改善。具体的には、建設業(前期▲58.3→今期▲39.6、前期比+18.7)、卸売業(▲77.9→▲61.0、前期比+16.9)と大幅に改善し、小売業(▲54.7→▲51.1、前期比+3.6)、サービス業、(▲67.2→▲66.9、前期比+0.3)においても若干持ち直した。一方、運輸業・倉庫業(▲53.8→▲77.5、前期比▲23.7)、製造業(▲63.1→▲68.2、前期比▲5.1)においては、悪化した。

規模別にみると、中小企業(前期▲65.8→今期▲60.6)は、前期比+5.2ポイントと若干改善したが、大企業(前期▲40.0→今期▲52.0)は、前期比▲12.0ポイント悪化した。

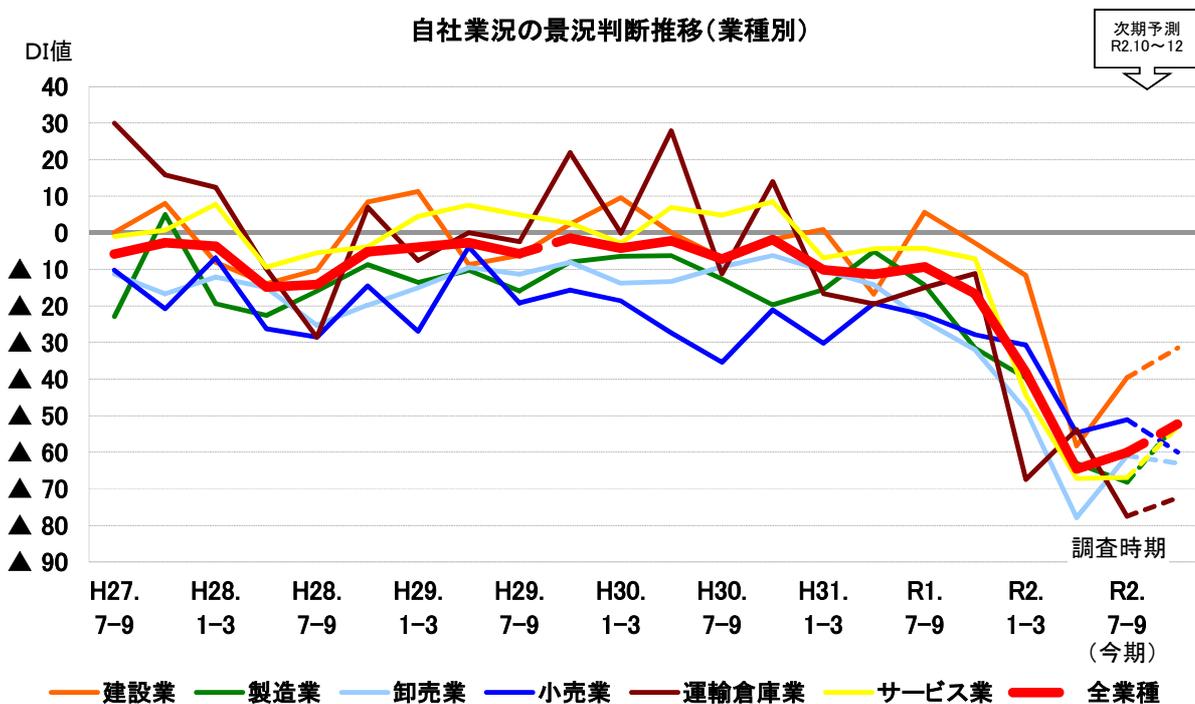
次四半期(令和2年10月～12月)予測については▲52.3となっており、今期比+7.8ポイントと若干改善する見通しだが、依然として厳しい状況が続く見通し。

《 自社業況の総合判断(前年同期と比較して) 》

(単位 %)

	今四半期(R2年7～9月期)実績							次四半期(R2年10～12月期)予測						
	非常に良くなった	やや良くなった	横ばい	やや悪くなった	非常に悪くなった	未記入	DI値	非常に良くなる	やや良くなる	横ばい	やや悪くなる	非常に悪くなる	未記入	DI値
全業種	1.1	6.3	21.6	37.5	30.0	3.6	▲60.1	0.7	7.0	21.1	39.6	20.4	11.3	▲52.3
建設業	0.9	7.2	39.6	33.3	14.4	4.5	▲39.6	2.7	9.9	33.3	36.0	8.1	9.9	▲31.5
製造業	0.0	7.1	9.4	43.5	31.8	8.2	▲68.2	1.2	8.2	15.3	42.4	18.8	14.1	▲51.8
卸売業	2.0	5.0	22.0	36.0	32.0	3.0	▲61.0	0.0	2.0	21.0	45.0	20.0	12.0	▲63.0
小売業	4.4	15.6	8.9	26.7	44.4	0.0	▲51.1	0.0	8.9	15.6	33.3	35.6	6.7	▲60.0
運輸・倉庫業	0.0	2.5	17.5	47.5	32.5	0.0	▲77.5	0.0	2.5	17.5	50.0	25.0	5.0	▲72.5
サービス業	0.6	4.5	20.1	38.5	33.5	2.8	▲66.9	0.0	7.8	18.4	36.9	24.0	12.8	▲53.1
中小企業	0.9	6.0	22.1	37.6	29.9	3.6	▲60.6	0.7	6.9	20.6	39.4	20.7	11.6	▲52.5
大企業	4.0	12.0	12.0	36.0	32.0	4.0	▲52.0	0.0	8.0	32.0	44.0	12.0	4.0	▲48.0

自社業況の景況判断推移(業種別)



## 2. 生産額、売上額、完成工事高

《改善。次期も改善の見通し》

生産額、売上額、完成工事高については、全業種で「増えた」と回答した企業は6.8%（前期比▲0.6%）、「減った」と回答した企業は64.3%（前期比▲3.8%）、「横ばい」と回答した企業は27.0%（前期比+6.0%）となっており、DI値は▲57.5（前期DI値▲60.7）と、前期比+3.2ポイントの改善となった。

業種別にみると、建設業（前期▲48.5→今期▲37.8、前期比+10.7）、卸売業（▲74.7→▲66.0、前期比+8.7）、サービス業（▲62.5→▲58.6、前期比+3.9）は改善した。一方、製造業（▲64.2→▲71.8、前期比▲7.6）、小売業（▲51.0→▲55.6、前期比▲4.6）、運輸・倉庫業（▲56.4→▲57.5、前期比▲1.1）で悪化した。

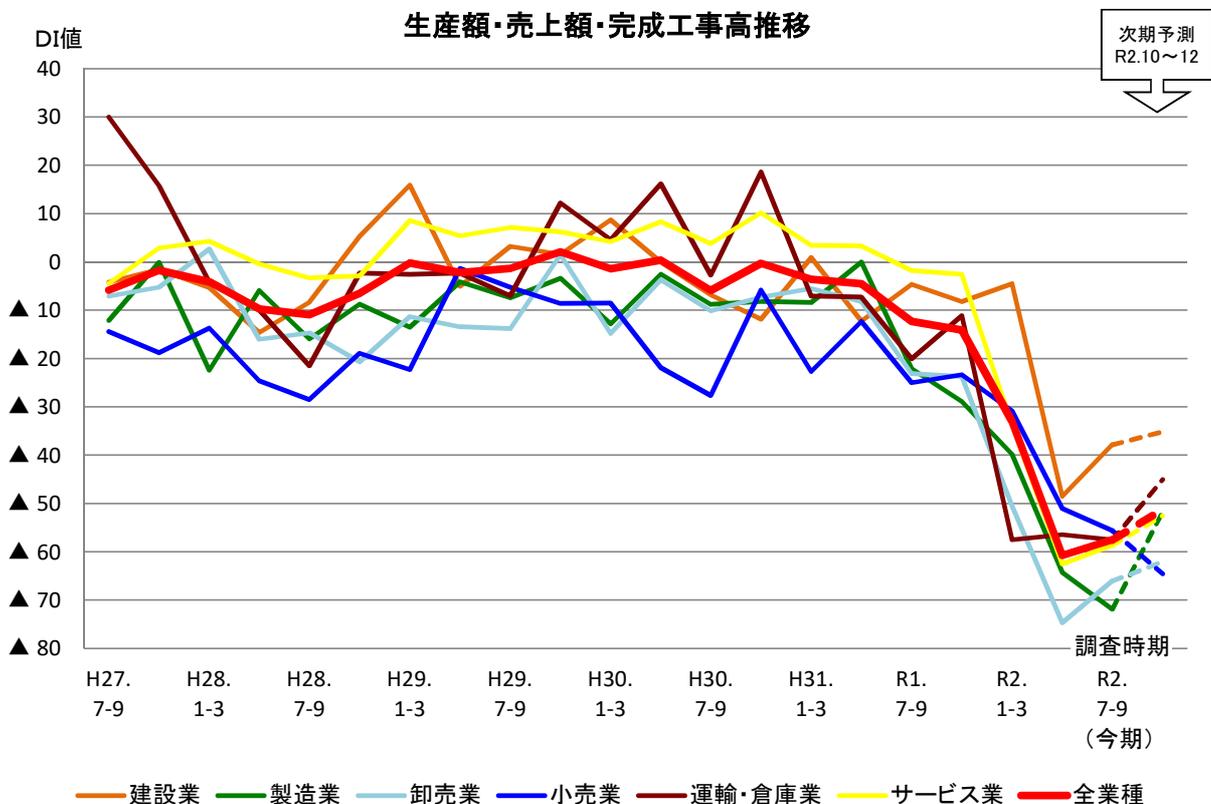
規模別にみると、中小企業（前期▲61.7→今期▲57.6）では前期比+4.1ポイント改善したが、大企業（▲40.0→▲56.0）では前期比▲16.0ポイントの悪化となった。

次四半期（令和2年10月～12月）予測については▲51.2となっており、今期比+6.3ポイント改善の見通し。

《生産額、売上額、完成工事高（前年同期と比較して）》

（単位 %）

	今四半期(R2年7～9月期)実績							次四半期(R2年10～12月期)予測						
	2ケタ増	1ケタ増	横ばい	1ケタ減	2ケタ減	未記入	DI値	2ケタ増	1ケタ増	横ばい	1ケタ減	2ケタ減	未記入	DI値
全業種	2.3	4.5	27.0	28.2	36.1	2.0	▲57.5	1.4	4.8	26.3	32.0	25.4	10.2	▲51.2
建設業	1.8	6.3	44.1	27.9	18.0	1.8	▲37.8	1.8	5.4	41.4	30.6	11.7	9.0	▲35.1
製造業	1.2	3.5	18.8	34.1	42.4	0.0	▲71.8	2.4	5.9	21.2	34.1	25.9	10.6	▲51.7
卸売業	2.0	3.0	22.0	30.0	41.0	2.0	▲66.0	1.0	2.0	20.0	41.0	24.0	12.0	▲62.0
小売業	4.4	11.1	13.3	22.2	48.9	0.0	▲55.6	0.0	4.4	22.2	28.9	40.0	4.4	▲64.5
運輸・倉庫業	0.0	2.5	27.5	27.5	32.5	10.0	▲57.5	0.0	5.0	25.0	22.5	27.5	20.0	▲45.0
サービス業	3.4	3.4	26.3	26.3	39.1	1.7	▲58.6	1.7	5.6	24.0	29.6	30.2	8.9	▲52.5
中小企業	2.2	4.3	27.3	27.5	36.6	2.1	▲57.6	1.5	5.0	25.6	31.6	25.6	10.7	▲50.7
大企業	4.0	8.0	20.0	44.0	24.0	0.0	▲56.0	0.0	0.0	40.0	40.0	20.0	0.0	▲60.0



### 3. 原材料、製(商)品仕入価格

《上昇。次期はほぼ横ばいの見通し》

原材料、製(商)品仕入価格については、「上昇」と回答した企業は13.8%(前期比+1.1%)、「下落」と回答した企業は7.5%(前期比▲0.7%)、「横ばい」と回答した企業は66.8%(前期比▲0.1%)となっており。DI値は+6.3(前期DI値+4.5)と前期比+1.8ポイント改善した。

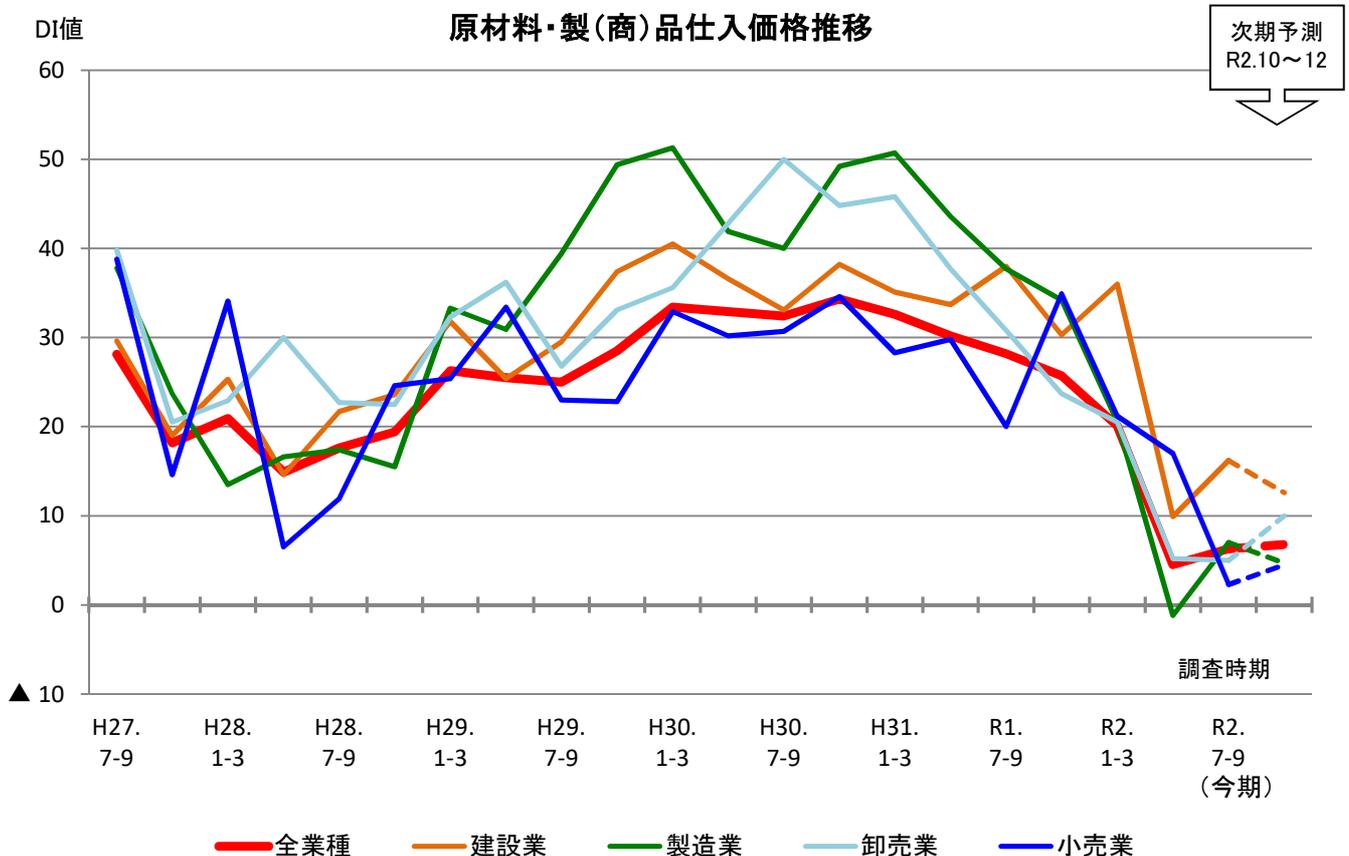
業種別にみると、ほぼ全ての業種において上昇。具体的には、製造業(前期▲1.2→今期+7.0、前期比+8.2)、建設業(+9.9→+16.2、前期比+6.3)、運輸・倉庫業(▲20.5→▲15.0、前期比+5.5)、サービス業(+5.5→+6.2、前期比+0.7)は改善した。一方、小売業(+17.0→+2.3、前期比▲14.7)、卸売業(+5.2→+5.0 前期比▲0.2)は悪化した。

規模別にみると、中小企業(前期+4.7→今期+6.5)では、前期比+1.8ポイント、大企業(±0.0→±0.0)では、前期と同じ結果となった。

次四半期(令和2年10月~12月)予測については+6.8となっており、今期比+0.5ポイントでほぼ横ばいの見通し。

《 原材料、製品仕入価格(前年同期と比較して) 》 (単位 %)

	今四半期(R2年7~9月期)実績					次四半期(R2年10~12月期)予測				
	上昇	横ばい	下落	未記入	DI値	上昇	横ばい	下落	未記入	DI値
全業種	13.8	66.8	7.5	12.0	6.3	12.9	62.5	6.1	18.6	6.8
建設業	18.9	73.9	2.7	4.5	16.2	16.2	71.2	3.6	9.0	12.6
製造業	14.1	76.5	7.1	2.4	7.0	11.8	70.6	7.1	10.6	4.7
卸売業	15.0	73.0	10.0	2.0	5.0	18.0	64.0	8.0	10.0	10.0
小売業	15.6	71.1	13.3	0.0	2.3	15.6	68.9	11.1	4.4	4.5
運輸・倉庫業	5.0	32.5	20.0	42.5	▲15.0	5.0	37.5	5.0	52.5	0.0
サービス業	11.2	60.9	5.0	22.9	6.2	9.5	56.4	5.0	29.1	4.5
中小企業	13.8	66.9	7.3	12.0	6.5	12.9	62.4	5.8	18.9	7.1
大企業	12.0	64.0	12.0	12.0	0.0	12.0	64.0	12.0	12.0	0.0



#### 4. 受注価格、販売価格

《ほぼ横ばい、次期はわずかに上昇の見通し》

受注価格、販売価格については、「上昇」と回答した企業は4.3%（前期比▲0.7%）、「下落」と回答した企業は23.6%（前期比▲0.8%）、「横ばい」と回答した企業は66.3%（前期比3.4%）となっており、DI値は▲19.3（前期DI値▲19.4）と前期比+0.1ポイントとなった。

業種別にみると、建設業（前期▲21.7→今期▲16.2、前期比+5.5）、卸売業（▲26.3→▲22.0、前期比+4.3）は上昇した。一方、運輸・倉庫業（▲12.8→▲20.0、前期比▲7.2）、製造業（▲17.8→▲22.4、前期比▲4.6）、小売業（▲9.5→▲13.3、前期比▲3.8）、サービス業（▲19.4→▲19.6、前期比▲0.2）では下落した。

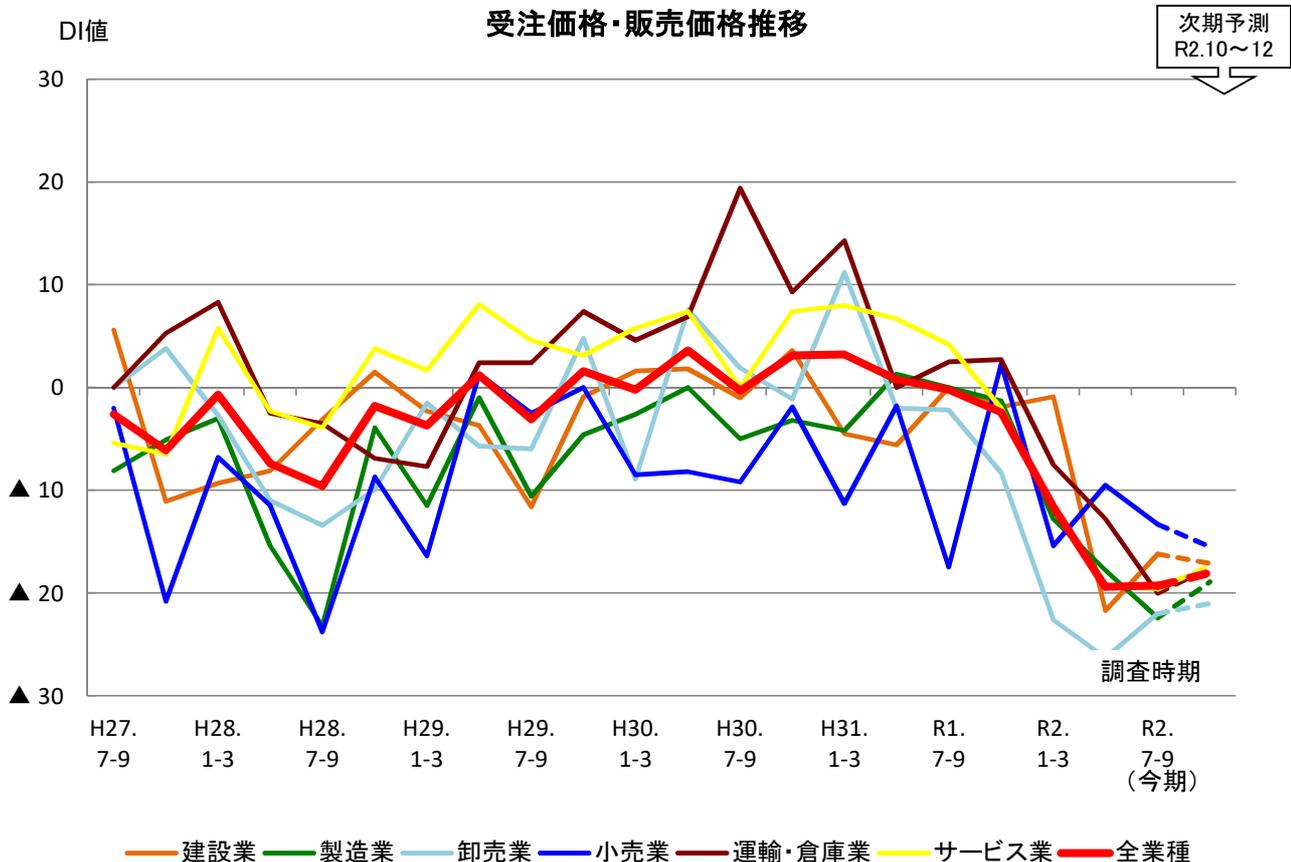
規模別にみると、中小企業（前期▲19.7→今期▲19.5）では前期比+0.2ポイントと上昇し、一方、大企業（▲12.0→▲16.0）では前期比▲4.0ポイント下落した。

次四半期（令和2年10月～12月）予測については、▲18.0となっており、今期比で+1.3ポイントでわずかに上昇の見通しとなる。

《 受注価格、販売価格（前年同月と比較して） 》

（単位 %）

	今四半期(R2年7～9月期)実績					次四半期(R2年10～12月期)予測				
	上昇	横ばい	下落	未記入	DI値	上昇	横ばい	下落	未記入	DI値
全業種	4.3	66.3	23.6	5.9	▲19.3	3.8	61.4	21.8	13.0	▲18.0
建設業	4.5	72.1	20.7	2.7	▲16.2	3.6	66.7	20.7	9.0	▲17.1
製造業	3.5	67.1	25.9	3.5	▲22.4	3.5	63.5	22.4	10.6	▲18.9
卸売業	2.0	72.0	24.0	2.0	▲22.0	3.0	63.0	24.0	10.0	▲21.0
小売業	11.1	62.2	24.4	2.2	▲13.3	6.7	66.7	22.2	4.4	▲15.5
運輸・倉庫業	0.0	55.0	20.0	25.0	▲20.0	0.0	47.5	17.5	35.0	▲17.5
サービス業	5.0	62.6	24.6	7.8	▲19.6	4.5	58.1	21.8	15.6	▲17.3
中小企業	4.1	66.2	23.6	6.2	▲19.5	3.7	60.9	21.7	13.6	▲18.0
大企業	8.0	68.0	24.0	0.0	▲16.0	4.0	72.0	24.0	0.0	▲20.0



## 5. 製（商）品在庫

《過剰、次期は持ち直し適正方向へ》

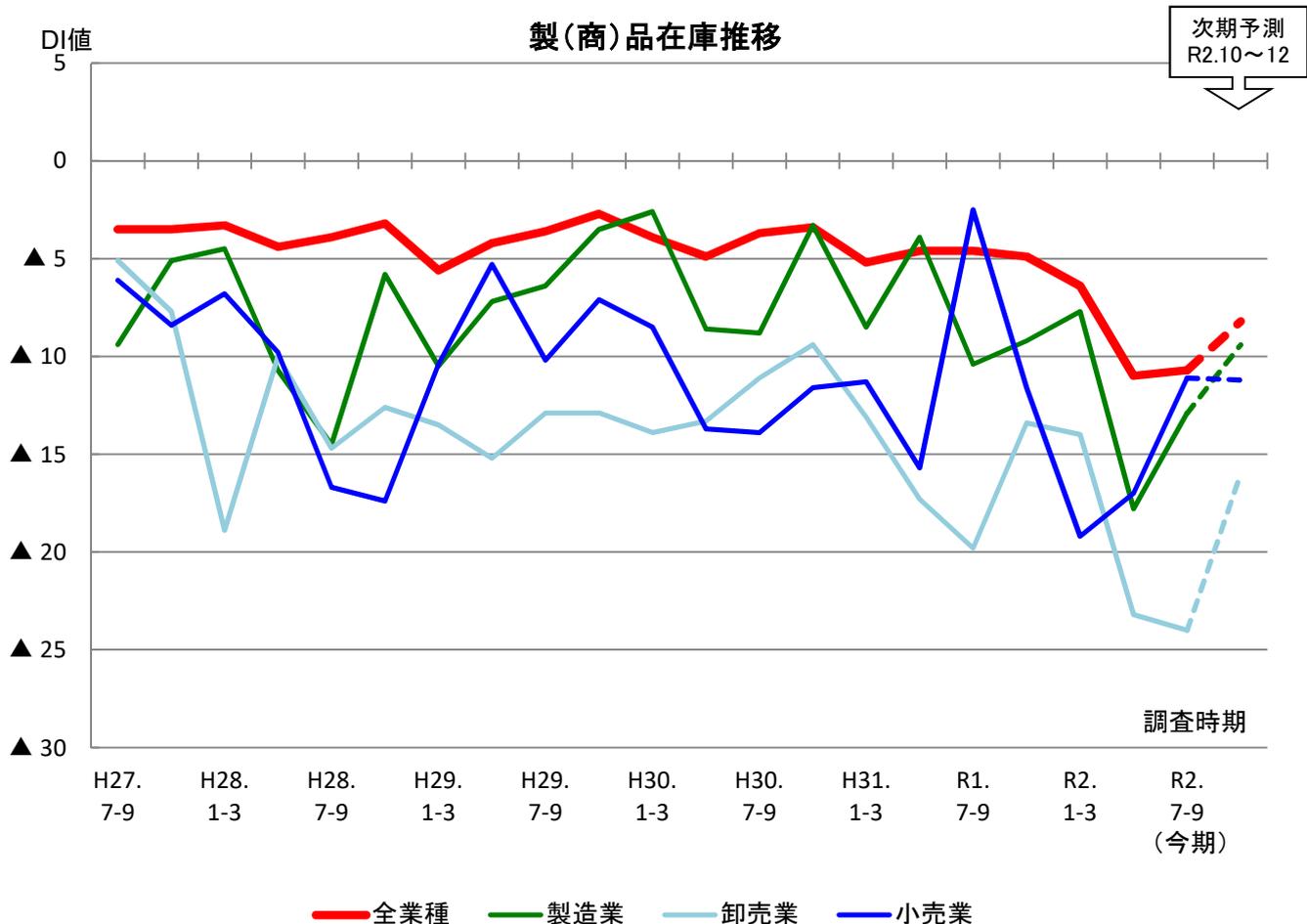
製（商）在庫については、「適正」と回答した企業は60.7%（前期比+0.7%）、「不足」と回答した企業は2.3%（前期比▲0.7%）、「過剰」と回答した企業は13.0%（前期比+1.0%）となっており、DI値は▲10.7（前期DI値▲11.0）と前期比+0.3ポイント改善したが、依然として過剰状態となった。

次四半期（令和2年10月～12月）予測については、▲8.2となっており、今期比+2.5ポイントで適正方向へ推移する見通し。

《製（商）品在庫（貴社の適正水準と比較して）》

（単位 %）

	今四半期(R2年7～9月期)実績					次四半期(R2年10～12月期)予測				
	不足	適正	過剰	未記入	DI値	不足	適正	過剰	未記入	DI値
全業種	2.3	60.7	13.0	23.9	▲10.7	2.5	57.3	10.7	29.5	▲8.2
建設業	2.7	59.5	4.5	33.3	▲1.8	3.6	54.1	5.4	36.9	▲1.8
製造業	2.4	78.8	15.3	3.5	▲12.9	2.4	74.1	11.8	11.8	▲9.4
卸売業	3.0	65.0	27.0	5.0	▲24.0	2.0	66.0	18.0	14.0	▲16.0
小売業	6.7	75.6	17.8	0.0	▲11.1	4.4	73.3	15.6	6.7	▲11.2
運輸・倉庫業	0.0	35.0	2.5	62.5	▲2.5	0.0	30.0	5.0	65.0	▲5.0
サービス業	1.1	52.5	10.6	35.8	▲9.5	2.2	48.6	9.5	39.7	▲7.3
中小企業	2.4	60.4	12.7	24.5	▲10.3	2.4	56.8	10.5	30.3	▲8.1
大企業	0.0	68.0	20.0	12.0	▲20.0	4.0	68.0	16.0	12.0	▲12.0



## 6. 営業利益 《大幅な悪化》

営業利益については、「増加」と回答した企業は6.4%（前期比▲1.2%）、「減少」と回答した企業は63.6%（前期比▲2.7%）、「横ばい」と回答した企業は28.2%（前期比+4.6%）となっており、DI値は▲57.2（前期DI値▲58.7）で前期比+1.5ポイントと微増しており、若干ではあるが改善した。

業種別にみると、卸売業（前期▲68.4→今期▲60.0、前期比+8.4）、建設業（▲45.5→▲41.4、前期比+4.1）、運輸・倉庫業（▲59.0→▲57.5、前期比+1.5）、サービス業（▲62.4→▲61.5、前期比+0.9）は改善した。一方、製造業（▲60.7→▲65.9、前期比▲5.2）、小売業（▲50.9→▲55.6、前期比▲4.7）で悪化となった。

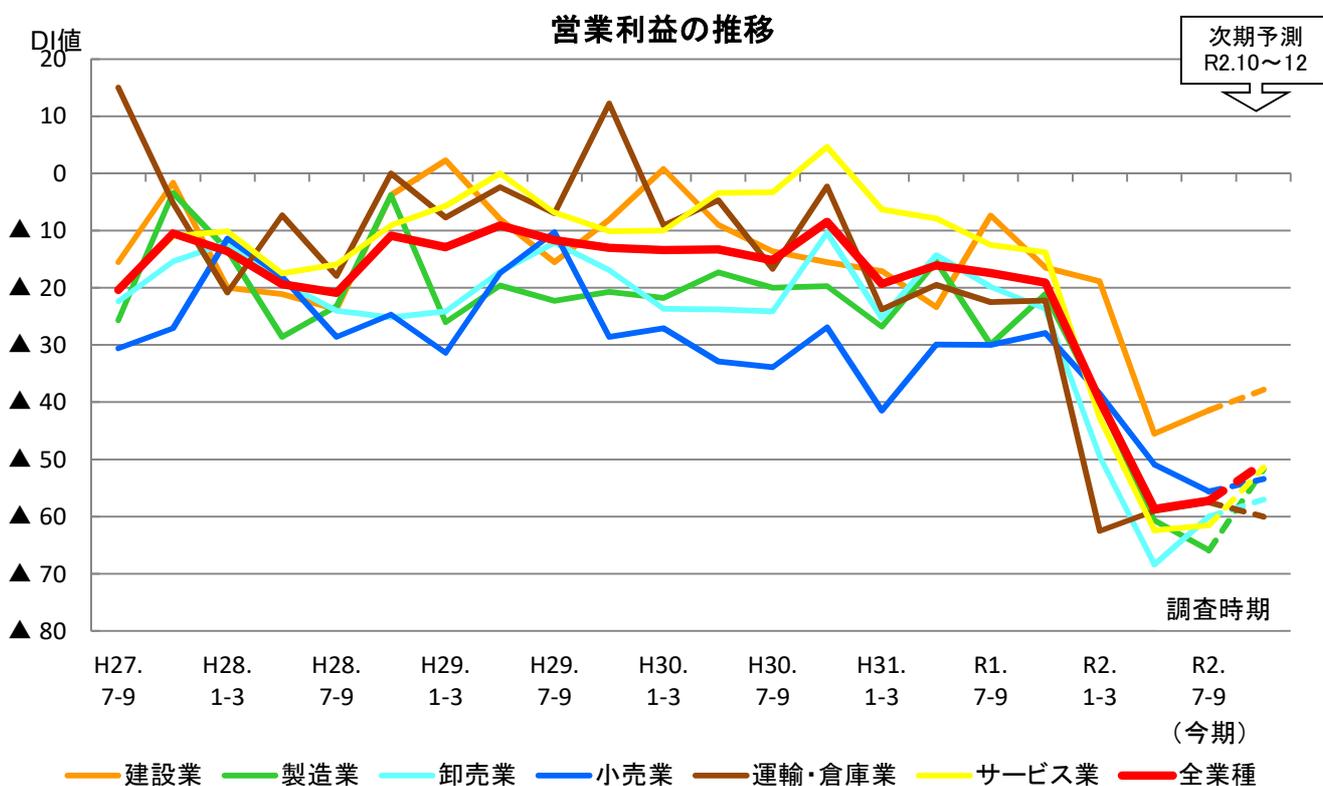
規模別にみると、中小企業（前期▲60.2→▲57.7）では前期比+2.5ポイント改善、大企業（▲28.0→▲44.0）では前期比▲16.0ポイントと悪化した。

次四半期（令和2年10月～12月）予測については、▲50.6となっており、今期比+6.6ポイントで改善の見通し。

《 営業利益（前年同期と比較して） 》

（単位 %）

	今四半期(R2年7～9月期)実績					次四半期(R2年10～12月期)予測				
	増加	横ばい	減少	未記入	DI値	増加	横ばい	減少	未記入	DI値
全業種	6.4	28.2	63.6	1.8	▲57.2	5.7	29.1	56.3	8.9	▲50.6
建設業	8.1	38.7	49.5	3.6	▲41.4	7.2	38.7	45.0	9.0	▲37.8
製造業	4.7	21.2	70.6	3.5	▲65.9	5.9	25.9	57.6	10.6	▲51.7
卸売業	6.0	27.0	66.0	1.0	▲60.0	5.0	24.0	62.0	9.0	▲57.0
小売業	13.3	17.8	68.9	0.0	▲55.6	4.4	33.3	57.8	4.4	▲53.4
運輸・倉庫業	5.0	30.0	62.5	2.5	▲57.5	2.5	25.0	62.5	10.0	▲60.0
サービス業	5.0	27.9	66.5	0.6	▲61.5	6.1	27.4	57.5	8.9	▲51.4
中小企業	6.0	28.6	63.7	1.7	▲57.7	5.2	29.0	56.6	9.2	▲51.4
大企業	16.0	20.0	60.0	4.0	▲44.0	16.0	32.0	48.0	4.0	▲32.0



## 7. 資金繰り

《悪化。次期はさらに悪化する見通し》

資金繰りについては、「楽である」と回答した企業は5.2%（前期比+0.4%）、「苦しい」と回答した企業は25.4%（前期比▲7.0%）、「不変」と回答した企業は67.0%（前期比+7.0%）となっており、DI値は▲20.2（前期DI値▲27.6）と前期比+7.4ポイントと改善した。

業種別にみると、製造業（前期▲35.7→今期▲22.4、前期比+13.3）、卸売業（前期▲32.6→今期▲20.0、前期比+12.6）、小売業（▲34.0→▲24.4、前期比+9.6）、運輸・倉庫業（▲25.6→▲17.5、前期比+8.1）、建設業（▲11.9→▲6.3、前期比+5.6）、サービス業（▲28.5→▲27.4、前期比+1.1）と全業種において改善した。

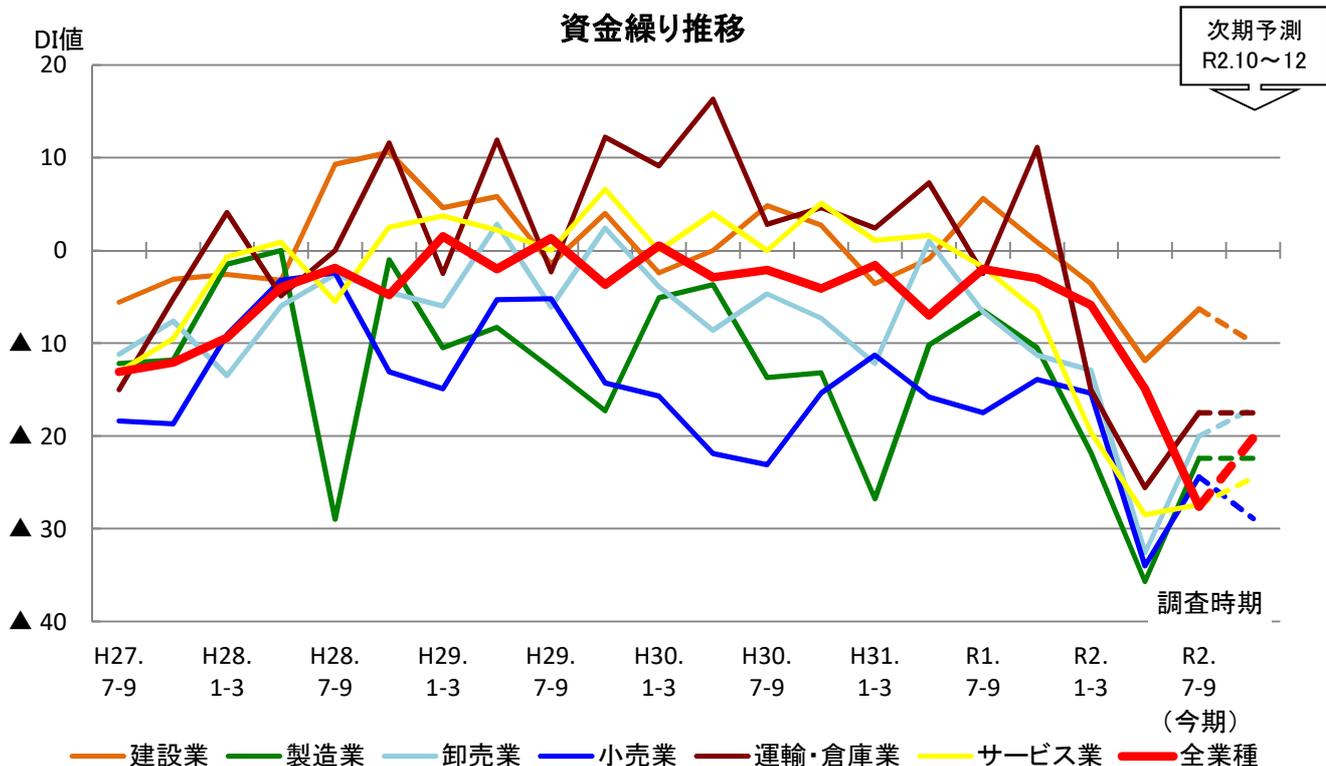
規模別にみると、中小企業（前期▲27.7→今期▲21.7）は前期比+6.0ポイント、大企業（▲24.0→+12.0）では前期比+36.0ポイントとともに改善した。

次四半期（令和2年10月～12月）予測については、▲19.8となっており、今期比で+0.4ポイントとほぼ横ばいの見通し。

《 資金繰り(前年同期と比較して) 》

(単位 %)

	今四半期(R2年7～9月期)実績					次四半期(R2年10～12月期)予測				
	楽である	不変	苦しい	未記入	DI値	楽になる	不変	苦しくなる	未記入	DI値
全業種	5.2	67.0	25.4	2.5	▲20.2	4.5	61.4	24.3	9.8	▲19.8
建設業	7.2	76.6	13.5	2.7	▲6.3	7.2	66.7	17.1	9.0	▲9.9
製造業	4.7	65.9	27.1	2.4	▲22.4	3.5	60.0	25.9	10.6	▲22.4
卸売業	5.0	68.0	25.0	2.0	▲20.0	4.0	65.0	21.0	10.0	▲17.0
小売業	8.9	57.8	33.3	0.0	▲24.4	4.4	57.8	33.3	4.4	▲28.9
運輸・倉庫業	7.5	57.5	25.0	10.0	▲17.5	5.0	55.0	22.5	17.5	▲17.5
サービス業	2.8	65.4	30.2	1.7	▲27.4	3.4	59.2	27.9	9.5	▲24.5
中小企業	4.7	66.7	26.4	2.2	▲21.7	3.9	60.9	25.2	9.9	▲21.3
大企業	16.0	72.0	4.0	8.0	12.0	16.0	72.0	4.0	8.0	12.0



## 8. 当面の経営上の問題点

当面の経営上の問題点として最も多かったのは、「受注、需要の増加又は減少」51.6%（前期比▲1.1%）であり、次いで、「営業利益の低下」44.5%（前期比+0.7%）、「人材難、求人難、定着化の悪化」29.1%（前期比+1.2%）、「天候などの自然条件」23.8%（前期比+5.6%）、「経費の増加」20.2%（前期比+2.3%）となった。

業種別でみると、製造業、卸売業、小売業では「受注、需要の増加又は減少」が多く、運輸・倉庫業、サービス業では「営業利益の低下」が多く、建設業では「人材難、求人難、定着化の悪化」が多かった。

規模別にみると、中小企業、大企業ともに「受注、需要の増加又は減少」が多かった。（中小企業：51.6%、大企業：52%）

《 当面の経営上の問題点（複数回答可） 》

（単位 %）

問題点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	天候などの自然条件	受注、需要の増加又は減少	出店、業者、大型店の進	官公需要の停滞	輸出の不振	少元（直）請の減	低下業率、稼働率	難原材料高、入手	の出荷下、納品価格	過剰在庫	嫁販売価格への転	難販売不良債権の回収	化売、掛手形間の長期
全業種	23.9	51.6	6.3	8.9	2.3	5.9	12.5	8	4.3	4.5	8.6	1.6	1.4
建設業	23.4	50.5	2.7	17.1	0	15.3	12.6	9	3.6	0	6.3	0.9	3.6
製造業	17.6	64.7	7.1	11.8	3.5	3.5	24.7	11.8	9.4	5.9	12.9	2.4	0
卸売業	33	58	5	7	4	1	5	11	8	11	7	3	1
小売業	40	55.6	20	2.2	2.2	2.2	8.9	11.1	0	11.1	13.3	0	0
運輸・倉庫業	40	40	2.5	0	10	7.5	17.5	2.5	2.5	2.5	7.5	0	0
サービス業	14	44.1	6.1	7.3	0.6	4.5	10.6	4.5	1.7	1.7	7.8	1.7	1.7
中小企業	23.4	51.6	5.8	9	2.4	6.2	12.7	8	4.3	4.1	8.6	1.5	1.5
大企業	32	52	16	8	0	0	8	8	4	12	8	4	0

4位 1位

問題点	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
	経費の増加	営業利益の低下	不陸、駐車場の狭	店舗の老朽化、近	代店、舗の設備、過	上家が賃り、地代の値	化難、材難、求人悪	費人増手過剩、人件	対労務管理、組合	資金借入難	金利負担の増加	難情報不足、入手	その他
全業種	20.2	44.5	1.6	5.9	1.8	29.1	6.4	4.5	3	5.2	3.4	9.6	4.8
建設業	25.2	33.3	1.8	2.7	0.9	55	8.1	1.8	0.9	2.7	4.5	4.5	4.5
製造業	17.6	45.9	1.2	8.2	0	16.5	7.1	3.5	2.4	5.9	2.4	5.9	1.2
卸売業	20	51	2	5	0	16	2	5	4	8	5	10	5
小売業	20	51.1	2.2	17.8	8.9	28.9	11.1	4.4	6.7	4.4	0	15.6	2.2
運輸・倉庫業	20	47.5	0	7.5	2.5	25	5	0	2.5	0	2.5	10	5
サービス業	18.4	44.7	1.7	3.9	2.2	27.4	6.7	7.3	3.4	6.1	3.4	12.8	7.3
中小企業	20.4	44.5	1.7	5.2	1.7	29.3	6.4	4.3	3	5	3.4	9.5	4.9
大企業	16	44	0	20	4	24	8	8	4	8	4	12	4

5位 2位

3位

自社業況の景況判断推移（「良くなった」「悪くなった」別、時代背景参考）

